

国語科 学習指導案

公開学級 第2学年 1組 (27人)

場所 南舎3階 2年1組教室

授業者 酒井 遥菜

1 単元名

魅力を効果的に伝えよう

2 本時のねらい

選んだ作品の鑑賞文を書いたり、グループで読み合ったりする活動を通して、自分や仲間の鑑賞文の表現の工夫とその効果に気づき、自分の鑑賞文のよさや改善点を見つけることができる。

B書く(1)エ,オ

3 本時の展開 (7/8)

過程	学習内容	研究に関わる手立て
導入 動機づけ	<p>1 前時までの学習を振り返る ●</p> <ul style="list-style-type: none"> 一つの作品とその鑑賞文について、よりよい表現方法について交流する。 S: 体言止めを使って、「～している人々がいる。」を「～している人々。」にするとよいと思います。 T: なぜその表現の方がよいと思ったのですか。 S 臨場感が出て、より魅力が伝わると思ったからです。 	<p>研究内容2 - ① 既習内容を用いて解決できる課題の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習内容の言葉の吟味や表現技法(倒置法, 体言止め, 比喩など)を想起させ、それを用いながら課題を解決に向かうことを確認する。
	<p>2 本時の課題を確認し、課題解決の見通しをもつ</p> <p>言葉や表現技法に注目したアドバイスを取り入れ、作品の魅力がより伝わる鑑賞文に仕上げよう。</p>	
展開 自己調整	<p>3 鑑賞文で工夫した表現と仲間にアドバイスを求める部分を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工夫した表現とその効果をグループの仲間に伝えられるようにする。 	<p>研究内容2 - ② “学びの広がり・深まり”を生み出す場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> より魅力が伝わる表現にするために、既習内容やタブレット端末、国語辞典、先生に聞くなどの方法を選択できるように示すことで、言葉の吟味をしたり表現技法を使ったりできるようにする。 選んだ絵画のジャンルごとで交流するグループ(3, 4人)を分けることで、自分と似た絵画を選んだ仲間と交流し、よりの射たアドバイスができるようにする。
	<p>4 グループ交流を行う ●</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビュー形式で書き手に対して質問やアドバイスをする。【例】 S1: 私は、「すごい」を「心に響く」という表現に変えました。 S2: なぜそのような表現にしたのですか。 S1: 「心に響く」の方が心まで響いてくるような感動がより伝わると思ったからです。 S2: なるほど。心で感じる感動を表現したいのであれば、「心が動かされる」という表現はどうですか。 S1: 確かにその表現もいいですね。しかし、私はこの絵画を見た時の衝撃を表現したいからな…。 	
	<p>5 仲間からの質問やアドバイスをもとに鑑賞文を考え直す(個人) ●</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間からのアドバイスをもとに鑑賞文の表現を考え直す。 インタビューされて答えられなかったことをより深く考える。 鑑賞文のテキストに工夫した内容を書き加える。(言葉の吟味 or 表現技法) 	
終末 自己の変容を実感	<p>6 全体で発表する(2, 3人を意図的指名)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「見た」を「惹きつけられた」という言葉にしました。その表現の方が、自分が気に入った絵画であることが読む人に伝わりやすいと思ったからです。 「波が」を「獣の爪のような波が」という言葉にしました。比喩を使うことで、大きく鋭い波であることが読む人に伝わりやすいと思ったからです。 	<p>研究内容2 - ③ 自己の変容に気付くための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> インタビュー形式で交流し、工夫した表現やその効果について説明することや取り入れた工夫の方法をテキストに書き込むこと、工夫前後の鑑賞文が見られるようにすることで自己の変容を客観的に振り返ることができるようにする。
	<p>7 交流を通して得た意見をもとに、自分の鑑賞文を再評価する ●</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流を基に自分の鑑賞文を再評価する。 鑑賞文が完成したらロイロノートのテキストに工夫したこと(言葉の吟味 or 表現技法)を書き加え、提出する。 	
	<p>8 本時の振り返りを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> 自信がもてたことや自身の変容など、本時で学んだことや感想を書く。 <p>本時のまとめ</p> <p>初めは「すごい」という表現にしていたけど、絵画を見た時の心の衝撃をより伝えるために、「心に響く」という表現に変えた。抽象的な表現が「心」や「響く」という具体的な言葉に変えることができてよかった。仲間からのアドバイスも活かしながら表現を工夫することで、より絵画の魅力が伝わる鑑賞文にすることができたと思う。</p>	

終末 第 8 時

スムーズー美術館を開いて、様々な絵画の鑑賞文に触れよう。(※スムーズー：学級目標)

- ・「すごい」よりも「心に響く」の方が、表現が豊かで読み手に魅力が伝わりやすくなっていた。
- ・「～している人々がいる。」よりも「～している人々。」と体言止めにするると、臨場感が出て読み手に魅力が伝わりやすくなっていた。

終末時の手立て

- ・絵画と工夫前後の鑑賞文を一度に見ることができるようになる。
- ・評価する視点を示した鑑賞カードを活用し評価し合うことで、仲間の鑑賞文の良さやアドバイスを見つけることができるようになる。
- ・鑑賞カードを生活班の班員から書くようにし、1人3枚は鑑賞カードをもらえるようにすることで、次の学習に活かせるようにする。

展開 第 2 時～第 7 時

第 7 時(本時)

- ・鑑賞文の工夫した表現を伝える。
- ・よりよい鑑賞文にするためにアドバイスしてほしいところをグループの仲間に伝え、その部分についてアドバイスをもらう。

第 6 時

- ・読み手を意識しながら、「感じたことを表す言葉」を1つは使い、鑑賞文を200字程度で書く。
- ・工夫する前の鑑賞文を全体で見て、自分ならどう工夫するか考え、自分の鑑賞文に活かす。

第 5 時

- ・絵画を鑑賞し、魅力を一言で表す。感じたことや想像したことをロイロノートの共有ノートに書き出す。

第 3-4 時

- ・3つの技法について、絵と本文を結び付ける。
- ・「君は『最後の晚餐』を知っているか」と『最後の晚餐』の新しさ」の文章を比較し、共通点や相違点を考える。

第 2 時

- ・本文を通読する。
- ・本文を段落分けし、3つのまとまり(序論・本論・結論)に分ける。

学習後の生徒の姿 (調整型自力解決)

文章をより効果的に伝えるには、読み手の立場に立つて言葉を吟味し感じたことを表す言葉を入れたり、表現技法を入れたりするとよいことが分かった。また、それらのことが内容を伝えたり印象づけたりするうえで、どのように働いているかを考えることも大切だと思った。これらのことを、これから文章を書く時に活かしていきたいと思う。

国語科における調整型自力解決

- 語感を磨き、相手に伝えるための語彙を豊かにする力。
- 協働的な学びの中で、自分の考えの良い点や可能性を活かすと共に、異なる考えも知り、組み合わせることで、より良い考えを生み出す力。
- 課題解決のために、見通しをもって取り組む力。

単元の課題 読み手に作品の魅力が伝わる鑑賞文を書こう。

導入 第 1 時

修復前後の「最後の晚餐」を見て、感じたことを交流しよう。

- ・修復前後ではどこが違うのだろうか。
- ・修復前後の違いをどう説明できるだろうか。

導入時の手立て

- ・大塚国際美術館で見た「最後の晚餐」の修復前後の作品を見せる。
→どちらがどちらなのか、なぜそう思うのか写真を指し示しながら説明を試みる。

Unit を通した手立て

- ・Unit を見通した掲示
- ・ロイロノートの共有ノートの活用
- ・グループ構成(第 6 時までは学習班、第 7 時(本時)は美術作品のジャンル別)の工夫

